

地域連携交流会

日時:令和5年7月27日(木曜日)19:10~20:10

会場:小松市民病院 南館4階 1~4研修室

- 1. 病院長挨拶 小松市民病院長 新多 寿
- 2. 新任医師紹介
- 3. シンポジウム

テーマ:地域救急医療を支える当院の使命

司会:小松市民病院副院長 吉田 豊

【演者】

- 消化器疾患の緊急内視鏡治療の実際 内科担当部長 三輪 一博
- 急性冠症候群の心臓カテーテル治療の実際 内科医長 油尾 亨
- 脳梗塞の急性期治療の実際 脳神経外科担当部長 吉田 優也

【コメンテーター】

- 十慈医院院長 牧本 和生 先生
- 湯浅医院院長 湯浅 豊司 先生
- 東病院院長 東 良 先生

4. 閉会の挨拶

小松市民病院 地域医療支援室室長 又野 豊



トキメキ
スプリーム

小松市民病院 連携広報誌

Toki-Meki

Vol. 03

2023. September

SUPREME

ときめきに従い、至高を追求する

Today's keyword

地域連携交流会

お互いを思い遣る地域連携をめざして



令和5年7月27日に小松市民病院主催で開催されました地域連携交流会には、院内外より総勢121名の方々のご参加をいただきました。今回はその中でのシンポジウムの様子についてご紹介いたします。



国民健康保険
小松市民病院
Komatsu Municipal Hospital

連携・患者紹介に関しまして、ご不明な点などございましたら、地域医療支援室までご連絡ください。
TEL: 0761-22-7111 FAX: 0761-21-7155 石川県小松市向本折町ホ60



Instagram

小松市民病院 地域連携交流会 シンポジウム

地域救急を支える当院の使命

急性冠症候群の心臓カテーテル治療の実際



循環器内科
医長 油尾亨

急性冠症候群の治療はprimary PCIによる早期の血行再建であり、ST上昇型心筋梗塞においては少しでも早く血行再建を行うことで患者予後を改善させることができます。当院は常勤の循環器内科医が5名在籍しており、常に2人以上の循環器内科医が急性冠症候群の治療にあたる体制を整えています。南加賀医療圏において最も充実した陣容です。当院では心電図伝送システムや、救急外来でのACS対応フローチャートなどを用いて迅速に冠血行再建術を行えるような工夫を行っております。Door to balloon time<90分が早期再灌流の一つの指標ですが、当院は66.7%の達成率であり、全国の急性期病院に引けを取りません。実際は、総虚血時間を反映するonset to balloon timeがより強く予後に関連しており、地域全体が急性冠症候群の治療に対する共通の認識を持つことが重要になります。急性冠症候群を疑う患者様を診察された際は、当院への救急車でのご搬送をお願いいたします。

JROADの調査結果で急性冠症候群の発症率やPCIの件数を発表している。心筋梗塞は全国で年間約78,000件なので、小松市はその1000分の1で年間78件ほどだと思います。そのうち小松市民病院では54件とのことですね。緊急PCIは夜間におこなうことが多く大変だと思います。「この患者の心電図を見てほしい」など気軽に相談できるシステムがあるといいですね。また、今後は急性冠症候群の他に心不全も増えてくると思うのでそちらの対応もお願いしたい。

■コメンテーター■



湯浅医院院長
湯浅豊司 先生

脳梗塞の急性期治療の実際



脳神経外科
担当部長 吉田優也

脳卒中の中なかでも脳の血管がつまる「脳梗塞」が高齢者を中心に増えております。多くの脳梗塞の患者が何らかの後遺症を残し、完全に回復することが困難であり、脳卒中は日本人の死因の第4位、寝たきりになる原因の第1位であります。当院では年間約260件の脳卒中の患者を治療しております。脳の血管がつまっても数時間以内に血流が再開すれば、脳組織が死なずにすみ後遺症が軽く済むことがあります。そのための治療には、①t-PAという注射薬（血栓溶解薬）を用いた治療と、②経皮的脳血栓回収術（カテーテル治療）があります。経皮的脳血栓回収術では、つままった脳の血管に細いカテーテルを誘導し、つままった脳の血管にある血栓を除去して脳の血流を再開させます。2014年からこのカテーテル治療が国内で開始されており、近年当院でも積極的に進んでおります。多くの人が脳梗塞の超急性期治療の認識を持つことにより、発症直後に来院する患者が増えれば、今後はさらに多くの脳梗塞の患者が重い後遺症を残さず回復するという恩恵を受けられるはずですよ。

2012年に南加賀救急医療センターができて、新しい血管内治療装置が導入されたと記憶しております。急性脳梗塞の血栓回収術後のADL回復状況はいかがですか。やはり、ADLが低下してしまい自立に至る割合は半数程度なのですね。少ないスタッフで24時間365日対応していただき感謝しております。

■コメンテーター■



東病院院長
東良 先生

南加賀救急医療センターの体制

職員	人数
医師	2名（内科系・外科系） 専門診療科は オンコール体制
看護師	3~4名
薬剤師	1名
臨床検査技師	1名
診療放射線技師	1名

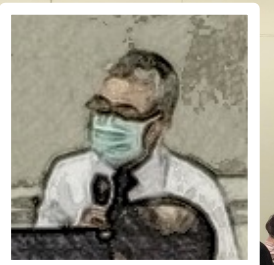
南加賀救急医療センターの利用件数内訳

	R2年度	R3年度	R4年度
救急車	2,247	2,498	3,126
（うち入院）	1,043	1,170	1,278 (40.9%)
ウォークイン	4,778	3,942	5,930
（うち入院）	957	814	902 (15.2%)
合計	7,025	6,440	9,056

南加賀救急医療センターについて

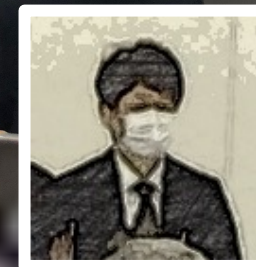
“南加賀医療圏の救急は南加賀医療圏で”をモットーに、2012年に南加賀救急医療センターは開設されました。現在の体制や利用件数は表のごとくです。コロナ禍でセンター内もゾーニングをして対応しておりますが、年々増える救急搬送患者に何とか応需するため日々奔走しております。また、新たな取り組みとして小松市消防より救急救命士の病院実習を受け入れ、医療スタッフと協働で実施しております。

■司会■



小松市民病院副院長
吉田豊

消化器疾患の緊急内視鏡の実際

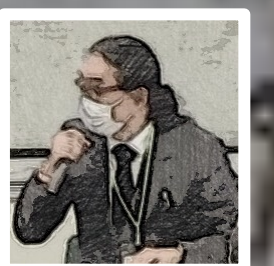


消化器内科
担当部長 三輪一博

消化器内科ではサブスペシャリティを持った4名の経験豊富な常勤医師により、年間200件超の緊急内視鏡治療に対応しております。その対象は上下部消化管出血や急性消化管閉塞、消化管異物、閉塞性胆管炎などです。さまざまなデバイスの進歩やEUS関連治療の発展により、個々の症例に応じた適切な治療が行えております。超高齢化社会において低侵襲治療への関心と期待は高まっており、緊急内視鏡治療のニーズは今後も高くなることが予想されます。救急患者の中には、高齢者や重篤な基礎疾患を有するハイリスク症例も多く、緊急症例にこそ安全性に十分配慮した迅速かつ適切な処置および周術期管理を遂行する必要があると思われます。消化器緊急症を認めた場合には当院へのご紹介をよろしく申し上げます。

上部消化管出血や閉塞性胆管炎などの緊急患者を多く紹介させていただいている。いつも電話ひとつで引き受けていただき非常にありがたい。地域の中核病院として、内視鏡室の規模がもう少し拡大しても良いかと思えます。医師やスタッフの数もまだまだ必要でしょう。カンファレンスなどに声をかけていただき参加できれば、お互いの状況がより理解できてよいかと思います。

■コメンテーター■



十慈医院院長
牧本和生 先生